

1 研究主題

社会的事象を多面的にとらえ、社会的な見方・考え方を深める子どもの育成
～資料からどのようにして、何を読み取らせるか～

2 研究の概要

(1) 研究主題の受け止め

研究主題に迫るために、「新たな教材開発」と「授業研究」の二点から研究を推進した。教材開発については、地域巡検という形式で、地域との結びつきが強く、教材としての価値が高い燕市新庁舎を取り上げた。また、授業研究では資料の読み取りから、児童が「気づき」を「考え」に深める授業の在り方について授業参観をとおして協議した。

(2) 研究の実際

① 部会組織の確立と予定確認

4月17日(水)、弥彦小学校を会場にして、正副部長の選出と、研究主題の設定、活動計画の立案を実施した。

② 新たな教材開発

6月5日(水)、燕市の新しい庁舎の見学を実施した。当日は、見学だけでなく担当者から直接説明をしていただき、新庁舎の仕組みや行政の思いや願いをも知ることができた貴重な体験となった。教材化に向けて役立つ研修となった。

③ 資料の読み取りを中心に据えた授業研究

12月4日(水)、弥彦小学校の谷元教諭(6年担任)による授業研究を実施した。

ア 授業の構想と実際

小単元「日本の独立と東京オリンピック」で、日本が独立を回復し、アメリカとの軍事や経済の結びつきを強めながら産業を発展させ、東京オリンピックを開けるまでに国際的な地位が向上したことを理解させる授業であった。社会科部の研究主題を受け止め、比較資料を用いてねらいにせまる構想であった。児童は、様々な資料から自分の気づきを考えに深めようとしていた。学習態度もよく学級力の高さもうかがえた。



イ 資料に関しての検討

教師が意図的に提示した比較資料よりも、教科書や資料集の資料に関心が高まり、様々な気づきはあったが、自分の考えとして深めるには至らなかった。教師が比較のポイントを示したり、資料を大きくして全員が同じ目線で見合ったりするなどの工夫が必要であった。

ウ 授業構成に関しての検討

学習指導要領に基づき、授業のねらいを明確にするとともに、その達成に向けて、どんな資料と発問で児童に向き合うのかを吟味する必要があった。また、社会科における言語活動の在り方を普段から意識していかなければならないことも明らかになった。

3 成果と課題

毎年地域巡検を実施しているが、今年度は新庁舎の成り立ちや仕組みについて知ることができ、児童の見学活動に生かすことが期待できる。今後、教材化していくための教師による事前学習と焦点化が必要である。

授業研究においては社会科の基礎・基本を踏まえたねらいの明確化、「資料提示と発問」をセットにして吟味していく必要がある。今後、市内どの学校においても社会科の基礎・基本を大切にしながら、社会的事象を多面的にとらえ、社会的な見方・考え方を深める子どもの育成を図っていきたい。